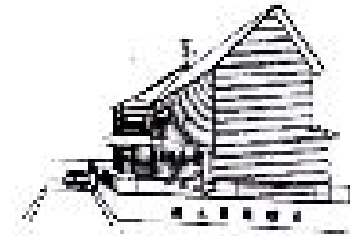


<今朝の聖書から>

先週は“罪の赦しの宣言”とするのである癒しについて、おそらくはペテロの家での出来事でしょうが、魔術や手品ではなく“私たちの救いと福音”に関わる“奇跡の出来事”と、その教え(私たちが知るべきこと)について学びました。今日も奇跡物語です。しかし今度の記事は、聖書の箇所では少し特徴的なもので、自然界に関わる記録です。このような記録はいくつかありますが、多くの群衆の見ているところではなく、弟子達だけに与えられた奇跡になっています。イエス様の権威についてみましょう。病気や汚れた霊に対してだけでなく、イエス様の権威は神ご自身の権威であり、霊的な権威にとどまらず、被造物の全てに及ぶことに気づくでしょう。このことをしっかりと明記させるために弟子達を選ばれたようでもあります。“主は紅海をしかって、それをかわかし、彼らを導いて荒野を行くように、淵を通らせられた”と詩編 106:9 にあります。イエス様の権威は、人間的なものや社会的なものだけでなく、その性格から、あらゆる範囲に及んでも何の不思議もないことに感謝をしましょう。問題は超自然的な事に直面した人々の信仰心にあるようです。今でも“なりゆきだから避けがたいこと”と、神様とは何の関係もないことのように私たちは考えてしまいます。しかし神様の許しが必要なければ、なんの出来事も起きないことを思い出すべきです。イエス様の不思議をまねて、“明日この世の終わりがやってくる”と予言する人たちや、“私が奇跡を起こす”という人たちがたくさん現れました。しかしそのような事に正しく対処する必要が私たちにはあるのではないのでしょうか。可能な限り理性的になることにより“不思議な不安”に悩まされることは何一つなくなるのです。“教会に終末がくる、この世は終わる”といった偽者が沢山いました。そして奇跡が起こらなかったら、エホバの証人たちがそうしたように、先に延ばすこともしました。ジョン・ウェスレーは、モラビア兄弟団の人たちと、同じ船に乗り合わせて、いまにもひっくり返りそうな大波に、大西洋の真ん中であった時も、彼らが平安の内に讃美を続けたことに心を打たれた、という記録が残っています。“神様の権威の内にあることを恐れることには意味はありません”。イエス様はこのことを“なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか”と仰っています。何もなくてよいというわけではありません。最善を尽くすべきなのです。しかし問題になるのは“恐れ”です。私たちもいっぱい恐れを持っています。目の前の危険であったり、将来に対する漠然とした、しかしなかなか根深い不安であったりします。解決して下さる方から力と主への信頼を頂きましょう。

週報

2010年 2月 14日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042